

[資 料]

高校生の職業選択及び進学先選択に関する調査研究
—体育・スポーツ系及び福祉系を中心に—

東川 安雄¹・山崎 昌廣¹・工藤 隆治¹・村上須賀子¹・渡邊 満¹
武田 守弘¹・松尾 晋典¹・房野 真也¹・高田 康史¹・加地 信幸¹
河野 喬¹・森木 吾郎¹・鬼塚 純玲¹・前田 一篤¹

**Research on High School Students' Choice of Occupation and University:
Focusing on physical education / sports and welfare**

Yasuo HIGASHIKAWA, Masahiro YAMAZAKI, Ryuji KUDO, Sugako MURAKAMI,
Michiru WATANABE, Morihiro TAKEDA, Sinsuke MATSUO, Shinya BONO, Yasusi TAKADA,
Nobuyuki KAJI, Takashi KAWANO, Goro MORIKI, Sumire ONITSUKA, Kazuma MAEDA

Abstract

The purpose of this study is to clarify the factors involved in high school students' occupation choices and university choices, with a focus on occupations in three fields: health and physical education teachers/sports and welfare. The results of analyzing the survey results for high school students are as follows.

1. Regarding the most important thing in choosing occupations, there were many who answered that they could make use of what they liked among health and physical education teachers and those who chose sports as occupations. On the other hand, among those who chose welfare, nursing, and medical care, there were many who replied that "it helps many people". We were able to see a difference in consciousness of occupational choice between physical education / sports and welfare.
2. As for the reasons for wishing to go on to university, nearly 50% of health and physical education teachers answered that they need a university graduation qualification to get the job they want. On the other hand, in sports relations and welfare / nursing / medical services, more people answered that they want to learn advanced specialized knowledge deeply than health and physical education teachers, and those who consider welfare / nursing / medical care as future occupations. The trend was remarkable.
3. With regard to occupation succession with family members, about 20% to 30% of people accepted occupation succession.

KeyWords

High School Students (高校生), Occupation Choice (職業選択), University Choice (大学選択), Physical Education/Sports (体育・スポーツ), Welfare (福祉)

¹ 広島文化学園大学人間健康学部 (Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)

緒 言

近年、体育・スポーツ系や福祉系の学部・学科の設置が増加している。スタディサプリ¹⁾のホームページで検索すると、スポーツが学べる大学・短大は232校あり、福祉学を学べるところは417校にのぼる。また、飯田²⁾は、平成22年度に全国体育系大学学長・学部長会に会員登録している24大学・学部で学ぶ学生総数は30,000人を超えており、未加入の新設大学・学部、学科・コース等を加えると相当の学生数にのぼると見込まれると指摘している。このような増加傾向の背景について、健康づくりに対する社会の要請、さらには有力スポーツ選手を推薦入学で受け入れ、選手の活躍による知名度アップをねらうという経営戦略が関係しているという指摘がある³⁾。しかし、実際に受験する高校生は職業選択や大学選択をどのように捉えているのかといった視点からの分析は管見の限り見当たらない。

そこで、本研究は、高校生を対象とした職業選択や大学選択といった進路に関する調査を行い、特に保健体育教師、スポーツ関係、福祉・看護・医療の3分野の職業選択に焦点を当て、それぞれの選択に関連する要因の実態を明らかにすることを目的とする。

方 法

1. 調査対象者及び方法

調査は、広島県内の普通科・専門学科（体育科等）及びオープンキャンパス参加者の高校生を対象とし、調査目的、匿名性等について説明し、承諾を得たうえで調査票を用いた配票調査で実施した。有効回答数は356部である。性別及び学年別内訳は表1のとおりである。

表1 有効回答者の性別・学年別内訳（人(%)）

性別		学年別		
男	女	1年生	2年生	3年生
247(67.1)	109(29.6)	90(24.5)	92(25.0)	174(47.6)

2. 調査内容

調査票は、鳥取県高等教育に関するニーズ研究会⁴⁾が実施した調査等を参考に、将来の職業について3項目、進学について6項目、あなた自身について6項目の計15項目で構成した。

3. データ処理

本調査によって得られたデータについては、選択した職業別（保健体育教師、スポーツ関係、福祉・看護・医療）と他の要因の関連性をみるため主としてクロス集計を用いた。

結果と考察

1. 職業選択

1) 将来一番なりたい職業

対象者全員に将来一番なりたい職業を自由記述により回答を求め、それを整理した結果が表2である。最も多かったのが「保健体育教師」(16.3%)である。これは、本研究の目的である保健体育教師やスポーツ関係の職業選択者に焦点を当てた分析をするため、体育科の生徒を調査対象者としたことが影響していると思われる。これ以外の職業では、「教員」(7.3%)、「トレーナー」(6.5%)、「プロ選手」(6.3%)、「スポーツ関係」(6.0%)などと続いている。

表2 将来一番なりたい職業

職 業	度数 (%)
保健体育教師	60 (16.3)
スポーツインストラクター	10 (2.7)
トレーナー	24 (6.5)
プロ選手	23 (6.3)
スポーツ関係	22 (6.0)
教員	27 (7.3)
福祉関係	10 (2.7)
看護師	18 (4.9)
医療関係	17 (4.6)
公務員	33 (9.0)
その他	72 (19.6)
未定	52 (14.1)
合 計	368 (100.0)

続いて、本研究の目的をふまえ、3分野に再分類したものが表3である。「保健体育教師」32.6%、「スポーツ関係」42.9%、そして「福祉・看護・医療」24.5%となった。以降の内容については、この3分野別に分析・考察していくこととする。

表3

小カテゴリー	中カテゴリー	度数（％）
保健体育教師	保健体育教師	60(32.6)
スポーツインストラクター	スポーツ関係	79(42.9)
トレーナー		
プロ選手		
スポーツ関係		
福祉関係	福祉・看護 ・医療	45(24.5)
看護師		
医療関係		
合 計		184(100.0)

2) 職業選択で一番大切にすること

高校生が職業を選択する際に一番大切にすることを、選択した職業の3分野別にみたものの結果が表4である。全体的には、「自分が好きなことを活かせる」が45.3%と圧倒的に多い。特に、保健体育教師やスポーツ関係を職業として選択した者では顕著な傾向にあり、それぞれ5割以上となっている。一方、福祉・看護・医療を選択した者では、「多くの人の役に立てる」が35.6%と多く、体育・スポーツ系と福祉系で選択する価値観に違いをみることができた。野村⁴⁾は体育・スポーツ系大学・学部が増加傾向にある要因の一つとして、「高校までやってきたスポーツを続け、そのスポーツで生活したいと考える高校生が多い」ことを指摘しているが、それを裏付ける結果になったと言える。また、「安心して長く続けられる」では、保健体育教師<スポーツ関係<福祉・看護・医療の順で割合が多くなる傾向にあった。それ以外の項目では、一貫した傾向はみられなかった。

ところで、寺崎⁵⁾は、小・中学生のキャリア教育のあり方を検討する中で、「好き」や「やりた

いこと」といった自己理解に基づく職業選択の問題点を指摘している。このような指摘をふまえ、この点についてはさらなる分析が必要と思われる。

表4 職業選択で一番大切にしたいこと (%)

	保健体育教師	スポーツ関係	福祉・看護・医療	合計
収入が多い	10.2	2.6	8.9	6.6
しっかりした職場である	3.4	11.7	6.7	7.7
自分の好きなことが活かせる	57.6	51.9	17.8	45.3
多くの人の役に立てる	11.9	10.4	35.6	17.1
独立して自分だけでできる	1.7	1.3	2.2	1.7
休みが多い	0.0	1.3	2.2	1.1
安心して長く続けられる	15.3	20.8	26.7	20.4

2. 大学選択

1) 進学を希望する学部・学科

大学に進学するとした場合に希望する学部・学科(1番目)を3分野別にみたものが表5である。「スポーツ・健康科学系」の学部・学科を希望する者では、保健体育教師やスポーツ関係を将来の

表5 進学を希望する学部・学科の分野(1番目, %)

	保健体育教師	スポーツ関係	福祉・看護・医療	合計
文学・人文系	0.0	2.6	0.0	1.1
外国語系	0.0	0.0	0.0	0.0
教育系	23.3	1.3	2.2	8.8
芸術系	0.0	0.0	0.0	0.0
スポーツ・健康科学系	75.0	93.5	20.0	69.2
経済・経営・商学系	0.0	0.0	0.0	0.0
法・政治系	0.0	0.0	0.0	0.0
福祉系	0.0	0.0	15.6	3.8
理工系	0.0	0.0	2.2	0.0
国際系	0.0	0.0	0.0	0.0
環境系	0.0	0.0	0.0	0.0
情報系	0.0	0.0	0.0	0.0
農・獣医・畜産系	0.0	1.3	6.7	2.2
看護・保健系	1.7	0.0	46.7	12.1
家政・生活科学系	0.0	0.0	6.7	1.6

職業として考えている者に多く、特にスポーツ関係で顕著である。また、保健体育教師を考えている者では、教員養成系学部・学科が含まれる「教育系」の割合も高い。一方、福祉・看護・医療を将来の職業として考えている者では、「看護・保健系」が46.7%と最も多く、次いで「スポーツ・健康科学系」20.0%、「福祉系」15.6%と続き、やや分散する傾向にある。これは、表3のように福祉関係、看護師、医療関係の小カテゴリーを中カテゴリーとして一つに集約したことの影響と思われる。

2) 進学を希望する理由

表6は、進学を希望する理由（1番目）を3分野別にみた結果である。全体的には、「高度な専門知識を深く学びたいから」（31.7%）と「希望する職業につくために、大学卒業資格が必要だから」（30.6%）を理由とする者が多い。3分野別にみると、保健体育教師では「希望する職業につくために、大学卒業資格が必要だから」が48.3%と最も多く、次いで「スポーツ・健康科学系」20.0%、「福祉系」15.6%と続き、やや分散する傾向にある。これは、表3のように福祉関係、看護師、医療関係の小カテゴリーを中カテゴリーとして一つに集約したことの影響と思われる。

表6 進学を希望する理由（1番目、%）

	保健 体育 教師	スポ ーツ 関係	福祉・ 看護・ 医療	合計
希望する職業につくためには、大学卒業資格が必要だから	48.3	22.7	20.0	30.6
高度な専門知識を深く学びたいから	21.7	32.0	44.4	31.7
幅広い教養を身につけたいから	10.0	6.7	8.9	8.3
進学した方が就職するのに有利だから	6.7	18.7	13.3	13.3
将来の生き方や職業について、ゆっくり時間がほしいから	6.7	10.7	4.4	7.8
学生生活を楽しみたいから	0.0	0.0	0.0	0.0
高校を出ただけでは就職できないから	6.7	8.0	6.7	7.2
高校を出てすぐに就職するのが嫌だから	0.0	1.3	2.2	1.1
親など保護者や家族が進学を進めるから	0.0	0.0	0.0	0.0
ただなんとなく	0.0	0.0	0.0	0.0
みんなが進学するから	0.0	0.0	0.0	0.0

くために、大学卒業資格が必要だから」が5割近くとなる。保健体育教師になるためには、まず教員免許状を取得する必要がある、そのことが反映し、「教員免許が取れる」学部・学科を選択しているものと思われる。一方、スポーツ関係や福祉・看護・医療では、「希望する職業につくために、大学卒業資格が必要だから」（それぞれ22.7%と20.0%）や「進学した方が就職するのに有利だから」（それぞれ18.7%と13.3%）とする者もいるが、「高度な専門知識を深く学びたいから」を進学理由とする者が保健体育教師より多く、福祉・看護・医療を将来の職業として考えている者にその傾向が顕著である（44.4%）。大学卒業を職業選択の基礎条件として捉え、それぞれの職業に関係の深い専門的知識等を身につけたいという思いが反映していると思われる。

3) 進学するに当たって期待すること

進学するに当たって期待することを13項目設定し、「強く期待する」、「期待する」、「期待しない」、「まったく期待しない」の4段階で回答を得た。表7は、「強く期待する」と「期待する」を合わせた割合を3分野別にみたものである。保健体育教師では、「免許や資格を取得したい」が93.3%と特に多く、「専門的な知識を身につけたい」（71.7%）や「社会人になったときに、すぐに役立つ技術・技能を身につけたい」（71.7%）の割合も高い。福祉・看護・医療では、「免許や資格を取得したい」（88.9%）、「専門的な知識を身につけたい」（80.0%）と「社会人になったときに、すぐに役立つ技術・技能を身につけたい」（77.8%）が同程度で高い割合を示す結果となった。保健体育教師と福祉・看護・医療を将来の職業として考えている者については、どちらも表6でみた進学を希望する理由の結果と同様の傾向となった。一方、スポーツ関係では他の2分野のようにいずれかの項目に高い割合を示すという傾向はみられなかった。

その他の項目についてしてみると、保健体育教師やスポーツ関係では、「クラブ活動などを通じ

表7 進学するにあたって期待すること
(1 番目, %)

	保健 体育 教師	スポ ーツ 関係	福祉・ 看護・ 医療	全体
専門的な知識を身につけたい	71.7	68.0	80.0	72.2
免許や資格を取得したい	93.3	65.3	88.9	80.6
友人関係を特に大切にして、楽しい学生生活を経験したい	61.7	49.3	66.7	57.8
社会人になったときに、すぐに役立つ技術・技能を身につけたい	71.7	62.7	77.8	69.4
幅広い教養や物事を総合的に判断する力を身につけたい	63.3	56.0	68.9	61.7
クラブ活動などを通じて充実した学生生活を送りたい	65.0	65.3	26.7	55.6
大学がある地域で生活を楽しみたい	25.0	36.0	15.6	27.2
外国旅行など学生時代にしかできないことをいろいろとやってみたい	20.0	28.0	22.2	23.9
自分の能力や適性を見直したい	43.3	42.7	37.8	41.7
社会人になる前にゆっくりと考える時間がほしい	26.7	33.3	40.0	32.8
学問に対する取り組み方を身につけたい	43.3	25.3	37.8	34.4
クラブ活動などを通じて、多様な人間関係やリーダーシップを身につけたい	53.3	48.0	20.0	42.8
社会活動に積極的に参加し、幅広い経験を身につけたい	45.0	44.0	60.0	48.3

て充実した学生生活を送りたい」(それぞれ 65.0%, 65.3%) や「クラブ活動などを通じて、多様な人間関係やリーダーシップを身につけたい」(それぞれ 53.3%, 48.0%) を期待する割合が福祉・看護・医療より高い傾向にある。保健体育教師やスポーツ関係を将来の職業として考えている者は、今の高校で部活動に加入している者がいずれも 9 割以上であり、その活動を進学後も継続し、将来の職業選択に活かしていきたいという思いの表れであると思われる。福祉・看護・医療では、「社会活動に積極的に参加し、幅広い経験を身につけたい」(60.0%) の割合が他の 2 分野と比較して高い。表 4 でみたように、福祉・看護・医療を将来の職業として考えている者は、職業選

択において「多くの人の役に立てる」ことを最も大切にしたいと考える傾向にあり、このことと関連した結果であると思われる。

4) 進学先決定に当たって重視する情報源

表 8 は、進学先を決定するに当たって重視する情報源を 3 分野別にみたものである。分野別での相違はあまり見られず、「大学のオープンキャンパスや説明会」(62.8%), 「大学案内など教育機関のパンフレット」(51.7%), 「高校の進路指導」(49.4%) 等を情報源として重視する傾向にあった。「大学の公式HPなどのインターネット情報」(30.6%) の結果も加えると、進学先として希望する大学の情報提供が重要な要因となることが窺える。その他の項目では、「高校の先輩からの情報」(35.6%) を重視すると答えたものも多く、特に保健体育教師やスポーツ関係を将来の職業として考えている者にその傾向が顕著である。

表8 進学先決定に重視する情報 (%)

	保健 体育 教師	スポ ーツ 関係	福祉・ 看護・ 医療	合計
高校の進路指導	61.7	50.7	31.1	49.4
友達からの情報	5.0	12.0	6.7	8.3
大学案内など教育機関のパンフレット	68.3	41.3	46.7	51.7
大学のオープンキャンパスや説明会	65.0	53.3	75.6	62.8
家族や親せきなどの経験者からの情報	16.7	24.0	28.9	22.8
予備校などが発行している進路情報雑誌	0.0	0.0	2.2	0.6
高校の先輩からの情報	40.0	42.7	17.8	35.6
大学の公式HPなどのインターネット情報	30.0	25.3	40.0	30.6
その他	0.0	4.0	6.7	3.3

5) 家族等との職業継承性

田中・小川⁶⁾ は、成人の選択行動における職業継承性の存在を明らかにしている。表 9 は、家族等との職業継承性について 3 分野別にみたものである。3 分野とも家族や親戚に自分がなりたいと

表9 職業継承性 (%)

	保健体育 教師	スポーツ 関係	福祉・看護・ 医療	合計
いる	23.6	20.9	35.6	25.7
いない	76.4	76.1	64.4	73.1

思っている職業についている人がいると回答した者は2割～3割程度となり、ある程度の職業継承性を認める結果となった。

結 語

本研究は、特に保健体育教員、スポーツ関係、福祉関係の3分野の職業に焦点を当て、高校生の職業選択及び大学選択に関与する要因の実態を明らかにすることを目的とした。高校生を対象とした調査結果を分析し明らかになった結果は次のとおりである。

1. 職業選択で最も大切にすることについては、保健体育教師やスポーツ関係を職業として選択した者では「自分が好きなことを活かせる」と答えた者が多かった。一方、福祉・看護・医療を選択した者では、「多くの人の役に立てる」と答えた者が多く、体育・スポーツ系と福祉系で職業選択に対する意識の違いをみることができた。
2. 大学進学を希望する理由については、保健体育教師では「希望する職業につくために、大学卒業資格が必要だから」が5割近くとなった。一方、スポーツ関係や福祉・看護・医療では、「高度な専門知識を深く学びたいから」を進学理由とする者が保健体育教師より多く、福祉・看護・医療を将来の職業として考えている者にその傾向が顕著であった。

引用及び参考文献

- 1) スタディサプリ (2019) スポーツ学を学べる大学・短期大学(短大)一覧. https://shingakunet.com/searchList/ksl_daitan/gl_hd010/gshl010/
- 2) 飯田稔 (2010) 「スポーツ立国戦略」の策定に向けたヒアリング(資料). 全国体育系大学学長・学部長会資料. http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/detail/1293138.htm
- 3) 野村良和 (2006) 注目の学部・学科第2回「健康・スポーツ系」健康に対する意識の高まりを受け「からだ」に係る幅広い領域をカバー. Guideline, July・August:48-53.
- 4) 鳥取県高等教育に関するニーズ研究会(2004) 高校生の進路希望に関するアンケート調査報告書.
- 5) 寺崎里水 (2006) 「好き」を入口にするキャリア教育の限界－子どものやりたい「しごと」をめぐる－. 年報社会学論集, 19: 95-106.
- 6) 田中宏二・小川一夫 (1985) 職業選択に及ぼす親の職業的影響－小・中学校教師・大学教師・建築設計士について－. 教育心理学研究, 33: 173-178.
- 7) 久木元真吾 (2003) 「やりたいこと」という論理－フリーターの語りとその意図せざる帰結－. ソシオロジ, 48(2):73-89.